



Y.Machida

THE RADIO NIKKEI HAI KYOTO NISAI STAKES

第12回 ラジオNIKKEI杯 京都2歳ステークス (GⅢ)

1 着 2 着 3 着 4 着 5 着
本 賞 33,000,000円 13,000,000円 8,300,000円 5,000,000円 3,300,000円
付加賞 392,000円 112,000円 56,000円



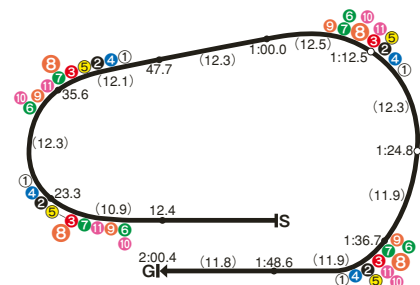
レース映像は
コチラでご覧
いただけます。

2歳、除未出走馬および未勝利馬
負担重量 馬齢重量

2025.11.29 京都 晴・良 芝2000m (国産) (指定)

順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム (着差)	コーナー 通過順位	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	⑧	ジャスティンピスタ	牡2	56	北村友一	2:00.4	5-6-7-8	35.0	516(+4)	25.0⑨	吉岡辰弥(栗東)	111
2	③	アスクエジンバラ	牡2	56	岩田康誠	1	5-5-5-5	35.2	464(+6)	49.9⑩	福永祐一(栗東)	109
3	⑩	ゴートゥスカイ	牡2	56	荻野 極	クビ	10-10-7-5	35.2	496(+8)	6.2③	上原佑紀(美浦)	109
4	①	ネットイライ	牡2	56	松山弘平	1½	1-1-1-1	36.0	438(-10)	51.5⑪	矢作芳人(栗東)	106
5	②	カラベルソナ	牝2	55	A.ブーシェ	クビ	3-3-3-3	35.8	444(-2)	7.2④	斎藤崇史(栗東)	
6	⑪	ウイナーズナイン	牡2	56	西村淳也	½	8-8-5-5	35.7	504(-4)	5.7②	小栗 実(栗東)	
7	⑥	バルセシート	牡2	56	C.デム・ロ	1½	10-10-9-10	35.6	466(±0)	2.2①	松下武士(栗東)	
8	⑨	フリーガー	牡2	56	坂井瑠星	ハナ	9-9-11-10	35.5	446(±0)	24.0⑧	矢作芳人(栗東)	
9	⑦	サトノアイボリー	牡2	56	団野大成	1¾	7-6-9-8	36.0	488(+2)	11.8⑤	杉山晴紀(栗東)	
10	⑤	ロックターミガン	牡2	56	鮫島克駿	3	4-4-3-3	36.9	534(-6)	11.5⑤	石坂公一(栗東)	
11	④	メイショウソラリス	牡2	56	武 豊	4	2-2-2-2	37.7	464(+4)	23.5⑦	角田晃一(栗東)	

単勝⑧2,500円(9¼) 複勝⑧710円(9¼) ③870円(10¼) ⑩250円(3¼) 枠連③-⑦12,120円(23¼)
馬連③-⑧32,490円(53¼) ワイド③-⑧7,860円(54¼) ⑥-⑩2,310円(29¼) ③-⑩3,940円(42¼)
馬単⑧-③53,360円(101¼) 3連複③-⑧-⑩80,990円(146¼) 3連単⑧-③-⑩674,750円(909¼)
5重勝①⑤①④⑧30,515,200円(10票) 対象競走: 京都9R/東京10R/京都10R/東京11R/京都11R



通過タイム: 600m 800m 1000m 上り: 800m 600m
35.6 - 47.7 - 1:00.0 47.9 - 35.6

アラカルト

- ・北村友一騎手は京都2歳S初勝利。JRA重賞は25年4勝目、通算38勝目
- ・吉岡辰弥調教師はジャスティンロックで制した21年に続く京都2歳S2勝目。JRA重賞は25年初勝利、通算6勝目
- ・サートゥルナーリア産駒はJRA重賞通算4勝目
- ・ジャスティンピスタの馬体重516kgは19年マイルブリーダーの馬体重510kgを更新する本競走優勝馬の最高馬体重記録
- ・単勝2,500円、枠連12,120円、馬連32,490円、ワイド7,860円、馬単53,360円、3連複80,990円、3連単674,750円は各形式における本競走の最高払戻金額

ジャスティンビスタ Justin Vista

牡 黒鹿毛 2023.4.9生
北海道新ひだか町 タイハイ牧場生産
馬主・三木正浩氏 栗東・吉岡辰弥厩舎
馬名意味・冠名+展望(伊)

ワシントンシティCHI系 F1→d

サートウルナーリア 黒鹿毛 2016	ロードカナロア 鹿毛 2008	キングカメハメハ レディブラッサム
	シーザリオ 青毛 2002	スペシャルウィーク キロフプリミエールGB
	ディープインパクト 鹿毛 2002	サンデーサイレンスUSA ウインドインハーヘアIRE
ペブルガーデン 鹿毛 2012	ワシントンシティCHI 鹿毛 1996	Wagon Master Tallahassee

5代までのインブリード：サンデーサイレンスUSA M3×S4

INTERVIEW

八尾圭樹ゼネラルマネージャー(タイハイ牧場)

生まれた時から素晴らしい馬でした

新馬戦の後、吉岡調教師から「まだまだ伸びしろがある馬」と声を掛けていただき期待していました。4コーナーからの脚は凄かったと思います。生まれた時から素晴らしい馬でしたが、人間を試すようなところがあり、育成牧場でも手を煩わせたと聞かれています。今回の結果は関係者の方々が一生涯懸命にこの馬と向き合っていたいただいたお陰と感謝しております。

Y.Maeda



力候補に名乗りをあげた。賞初制覇を果たし、ホープフルSの有

サートウルナーリア産駒の本馬は10月に京都・芝1800mの新馬戦でデビュー。2番手追走から抜け出し、脚勢に優った2着馬に並ばれると、再び加速して相手を突き放す中身の濃い内容で初勝利を挙げた。そんな初陣とは一転、後方で末脚勝負に構えたこの日は勝負どころで少しモタつく場面もあったが、勢いがついてからは抜群の決め手を披露。周囲の低評価を覆して重賞初制覇を果たし、ホープフルSの有

父サートウルナーリア

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央10戦6勝(皐月賞^{G1}、ホープフルS^{G1}、神戸新聞杯^{G2}、金鯱賞^{G2}、有馬記念^{G1}2着)、最優秀3歳牡馬、21年から供用〔代表産駒〕カヴァレリッツォ(朝日杯フューチュリティS^{G1})、ショウヘイ(京都新聞杯^{G2})、ファンダム(毎日杯^{G2})、フェスティバルヒル(ファンタジーS^{G2})、ジャスティンビスタ(本馬)、アンドウーリル(アイビーS・L)、コートアリシアン(新潟2歳S^{G2}2着、ニュージーランドトロフィー^{G2}3着)、レッドキングリー(東京スポーツ杯2歳S^{G2}3着)、クラウドアイ(京都2歳S^{G2}3着)、エストゥペンダ(クイーンC^{G2}3着)、アルメントフォーベル(アネモネS・L3着)

母ペブルガーデン

北海道新ひだか町 タイハイ牧場生産 中央4戦0勝
ミサキシヤンティ(17 牡父エスケンデレヤUSA)地方41戦1勝
グラティトゥー(18 牡父エビファネイア)中央14戦1勝、地方43戦4勝
プロヴィデンス(19 牡父エビファネイア)中央1戦0勝、地方3戦0勝(20 不受胎)
エコロレイズ(21 牡父アメリカンペイトリオットUSA)中央22戦2勝(二本松特別)^(伊)
ミズイロホルトゥス(22 牡父サートウルナーリア)中央10戦0勝
ジャスティンビスタ 本馬 (23 牡父サートウルナーリア)中央2戦2勝(京都2歳S^{G2}) 獲得総賞金40,892,000円
(24 牡父サートウルナーリア)
(25 牡父エビファネイア)

祖母ワシントンシティCHI

智4勝(チリ1000ギニー^{G1}、チリオークス^{G1}、ナショナルリカルドリヨン賞^{G1}2着、アルトゥーロリヨンペンヤ賞^{G1}2着、エルエンサヨ^{G1}2着、カルロスバルデススキエルド賞^{G3}3着)、00年輸入、16年用途変更
スコツデール(02 牡父ブライアンズタイムUSA)中央0勝、地方2勝(東海ダービー2着、駿蹄賞3着)
ラトルスネーク(08 牡父タニノギムレット)中央5勝(白秋S、小豆島特別、千種川特別、六甲S^{G2}2着、白百合S^{G2}2着)
タイダルベイスン(10 牡父アグネスタキオン)中央1勝
ペブルガーデン(12 前出)

曾祖母タラハシー Tallahassee

チリ産 智2勝、ウインザーキャッスル Windsor Castle(アルベルトビアルインファンテ賞・智^{G1}2着)の母

周囲の低評価を覆して重賞初制覇

新馬戦、芙蓉Sを連勝中のウイナースナイン、コスモス賞の覇者アスクエジンバラと、2勝馬も2頭参戦してきた京都2歳Sだが、主役と目されたのは1戦1勝の良血馬。新馬戦を完勝したレステンシアの半弟バルセシートが断然の支持を集め、これにウイナースナイン、1戦1勝のゴイントウスカイらが続く勢力図が描かれた。とはいえ、そんな一戦に待ち受けていたのは、大荒れの結末。複勝以外のすべての式別で、レース史上の最高払戻金で記録された波乱劇の主役を演じたのは、1戦1勝の伏兵ジャスティンビスタだった。

最内枠から好スタートを切り、主導権を握ったネットタイヤライは平均的なラップを刻んでレースを先導。1、2コーナーを後方4番手で回ったウイナースナインが向正面で5番手に進出したのに対し、ジャスティンビスタの北村友一騎手は後方馬群の一角で脚を溜める。ゲートで立ち遅れたバルセシート、スタート直後に挟まれたゴイントウスカイもその外につけ、仕掛けのタイミングを窺った。

快調に風を切ったネットタイヤライは直線に向いてからも内ラチ沿いでしぶとく逃げ粘ったものの、馬場の外めへ持ち出された差し馬の脚勢には抗しきれずに後退。4コーナーから早めに動いたゴイントウスカイが、残り200m地点で先頭に躍り出る。しかし、大外に進路を取り、エンジンに火がついたジャスティンビスタはこれを凌駕する末脚を発揮。一気に先頭へ突き抜けて勝負を決めた。

サートウルナーリア産駒の本馬は10月に京都・芝1800mの新馬戦でデビュー。2番手追走から抜け出し、脚勢に優った2着馬に並ばれると、再び加速して相手を突き放す中身の濃い内容で初勝利を挙げた。そんな初陣とは一転、後方で末脚勝負に構えたこの日は勝負どころで少しモタつく場面もあったが、勢いがついてからは抜群の決め手を披露。周囲の低評価を覆して重賞初制覇を果たし、ホープフルSの有